

らくポス Next とは

さまざまな使い方ができます。

- 単独でレジスター代わりに使う
- らくポス Next と連動した書店総合システムの P O S として使用する

2 台以上の P O S を接続することも可能です。

使用できるバーコード

- 雑誌バーコード（13 桁+5 桁）・・・登録済の雑誌コードは、レシートに雑誌名が印字されます。
- 書籍 2 段バーコード・・・本屋の村サーバ機能を利用すればレシートに書名が印字されます。登録されていない場合は分類名が印字されます。
- J A Nコード（1 3 桁・8 桁）・・・文房具など一般商品のバーコード。バーコードには価格情報は含まれていないので、あらかじめ商品元帳で登録しておくか、その都度価格を登録します。
- バーコードのない商品・・・キーボードに商品キーとして登録しておけば、そのキーを押すだけで使用できます。

POS データをどう使う？

- データ交換サービスを利用して取次に売上データを送信すれば、取次 POS と同様の扱いになります。（トーハン、日販）
- [雑誌定期改正](#)を行うことができます。
- 売上データを元に、データ交換サービス(トーハン、日販)をつかって補充発注を行うことができます。
- 商管の分析機能を使って、分類別などで分析して商品構成の検討資料に使用できます。
- 棚卸や入荷入力を行えば単品管理を行えます。

単独でレジスター代わりにではメリットはないの？

- バーコードを読み込むだけ。誰でも簡単にレジできます。普通のレジスターよりも操作は簡単！
- 書籍の分類はバーコードに含まれる C 分類から算出します。精算もその分類別に集計されます。
- 最初はレジスターとして、後で他パソコンに接続して、書店総合システムにシステムアップできます。

使用形態

次の 3 通りが想定できます。

1. らくポス Next 単独：同じパソコンをサーバーに指定（らくほん Next を使用しない）
2. らくほん Next とらくポス Next を同じパソコンで使用：同じパソコンをサーバーに指定
設定は簡単に出来ますが、納品書を作成しているときにお客さんがレジに来られたらタスクで切り替えて処理することは可能ですが混乱するかもしれません。できるだけ 3 をお勧めします。
3. らくほん Next とらくポス Next を別のパソコンで使用（L A N 接続）：別パソコンをサーバーに指定
らくほん Next も利用される場合はこの方法がベストです。但し LAN 接続が必要です。どちらかのパソコンをサーバーとしてデータを置き、もう一台のパソコンから接続します。